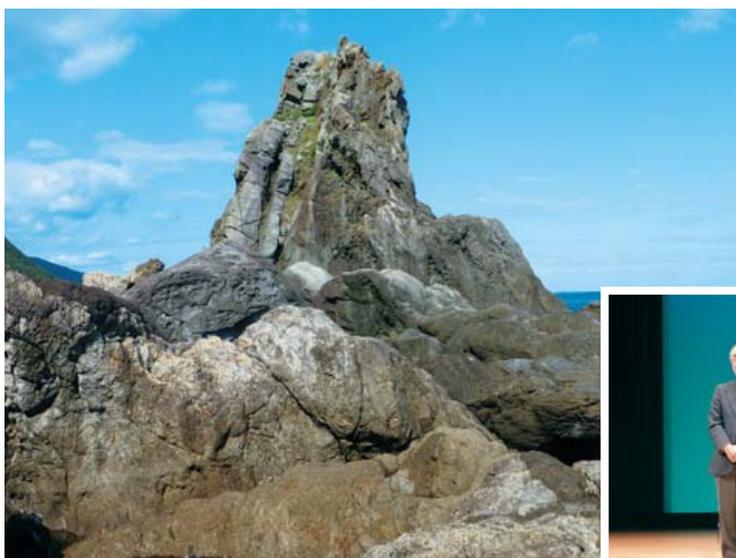


進め！ 銚子ジオパーク！

つながりがまちを元気にする

問合せ 銚子ジオパーク推進協議会事務局
☎(24)873399(生涯学習課内)



▲室戸ジオパークのシンボル、ピシャゴ岩



▲日本ジオパーク委員会 尾池委員長から認定書を受け取る野平市長

11月2日(金)～5日(月)、世界ジオパーク認定の「室戸ジオパーク」がある高知県室戸市で、第3回日本ジオパーク全国大会が開催され、銚子ジオパークとして、日本ジオパーク委員会から認定書を授与されました。

この大会では、各地域のジオパーク関係者が集い、勉強会が行なわれました。その中で、ジオパークは「場所ではなく、人とその活動」であることがあらためてクローズアップされました。今はまだジオパークと聞くと「地層」「岩石」などを想像し、それらを見学することと思われるところもあるようです。ジオパークとは、「見る、食べる、学ぶ」ことで、その土地をまるごと楽しむことと、日本ジオパーク委員会は提唱しています。

この活動をより身近に感じ、広げていくには、地域の住民が、まず自分たちの住んでいる地域の地質や地形を観察して、生態系や歴史、文化、自然を学び、楽しむことです。「ジオパーク」という仕組みを使って、地域でどんな活動をするかが大切なのです。楽しい対話などを通して人と人とつながり、地域にまとまりを生み、その土地で忘れられていた物語を呼び起こし、地域が再認識されるのです。

まちづくりの過程では、人との対話が地域社会として深く結び付き、まちを元気にしていきます。ジオパーク活動は、素敵なまちづくりの手段のひとつです。

銚子ジオパークキャラクターの名前「ジオっちょ」に決定！



市内の小・中学生の皆さん、多数の応募ありがとうございました。キャラクターの名前は、応募総数582点の中から「ジオパーク」の「ジオ」と「ちょうし」の「ちょ」を組み合わせた「ジオっちょ」に決定しました。「ジオっちょ」とともにジオパーク活動を盛り上げていきましょう。

今月の表紙



美味しさ満載 銚子の秋を堪能 第20回銚子市産業まつり

今年で20回目を迎える恒例の「銚子市産業まつり」が10月28日(日)、川口外港周辺で開催され、約3万8千人の来場者でにぎわいました。

会場内に設置された水産、農産、商工観光などの各コーナーでは、豪快なマグロの解体・販売や、サンマのつかみどり、野菜の即売、つきたて餅、アラ汁の配布など、各種団体が自慢の特産品をPRしました。

また、特設ステージでは、銚子はね太鼓の演舞やフラダンスなどが披露され、祭りを盛り上げていました。

このほかにも、郷土愛ある市民なら答えられる!? 難問・奇問が続出した「銚子ものしりクイズ」や、磁石で釣り上げた空き缶の数で景品がもらえる「缶詰つりコーナー」といった、さまざまなアトラクションで来場者を楽しませていました。